

は、血清中に多量に分泌されるという点と矛盾するのではないか。

2. 抗体の検定はしているか。

回答 (東京医大) 岡部 一裕

1. CA125の局在部位が細胞質内に存在する理由は胎生期の体腔上皮に由来しており、細胞質に存在する可能性はある。

2. 抗体の血清学的検定は行っていない。

4. ヒト卵巣癌(FIGO未分化癌)由来培養細胞株の樹立とその各種制癌剤に対する感受性の解析

(新潟大)

吉谷 徳夫, 田中 耕平, 安達 茂実
金沢 浩二, 竹内 正七

目的: ヒト卵巣癌(FIGO未分化癌)由来 *in vitro* 培養細胞株を樹立し、その性状及び各種制癌剤に対する感受性を検討した。

方法: 前年度本学術講演会に報告した卵巣未分化癌 nude mouse(NM)可移植腫瘍を、Dispase 処理により細胞を分離し、10% FCS 添加 MEM 培地中にて、37°C, 5% CO₂ 培養器内で静置培養した。培養細胞の形態は位相差顕微鏡、電顕及び各種染色を行い観察した。染色体分析、異種移植性の検討を行った。Salmon et al. に準じた *in vitro* colony assay を行い CDDP, ADR, VP-16, VCR, 5-FU, IFN- β 及び IFN- γ に対する感受性を検討した。すなわち、培養細胞の single cell suspension を作成し、各薬剤と1時間接触後、drug free 状態で培養し、2週間後に colony 形成率を検討した。

成績: 奥村式 cloning により、継代4代目より fibroblast 様細胞の混入を認めなくなり、現在培養開始後18カ月経過し、80代まで継代中で増殖は安定している。培養細胞の形態は、多核巨細胞を混じたほぼ均一な多角形細胞が上皮様数石状配列を示し、接触阻止は認めない。PAS 染色は陽性。電顕では、細胞内小器官の発達がよく、細胞質内に glycogen 顆粒を認め、desmosome も観察された。倍加時間は約37時間であり、plating efficiency (Puck 法) は13%であった。継代6代目の培養細胞を用いた染色体分析では、すべてヒト型の染色体を示し、多くは高2倍体域に分布し、mode は56であった。培養細胞 5×10^6 個を NM 皮下に移植した結果、腫瘍を形成し、その組織像は原腫瘍と類似しており、一部に PAS 染色陽性細胞を認めた。制癌剤感受性においては、CDDP, ADR に対し他の薬剤に比較して高い感受性を示した。

独創点: 卵巣癌(FIGO未分化癌)由来培養細胞株を樹立し、その細胞生物学的性状及び各種制癌剤に対する感受性を解析した。卵巣癌の本組織型由来培養細胞株の樹立は、文献上本邦第二例目と思われる。

質問 (大阪医大) 前田 隆義

human の serum 及び *in vitro* の medium 中の tumor marker の検索をされているか。

回答 (新潟大) 吉谷 徳夫

患者血中の CEA, α -FP, 及び HCG は正常であった。culture cell の medium 中では CEA, α -FP, HCG とともに検索していないが、CA-125 は正常 level であった。

質問 (大阪医大) 植田 政嗣

① *in vitro* colony assay における制癌剤の濃度の設定はどのようにしているか。

② また作用時間については如何か。

回答 (新潟大) 吉谷 徳夫

① von Hoff et al. の報告した制癌剤濃度に準拠している。通常の薬剤投与量における最高血中濃度の 1/10~1/20 と考えている。

② *in vitro* colony assay においては、薬剤接触を water bath 中でおこなうので、長時間の接触は困難と思われる plating efficiency が極めて低くなると思われる。

5. 新しい腫瘍マーカー, CA125, TPA の腫瘍特異性について一特に血中値と腫瘍内局在相関の観点より

(川崎製鉄千葉病院)

深沢 一雄, 仁藤 章夫, 板橋光司郎

目的: 新しい腫瘍マーカー, Cancer antigen 125 (CA125), “古くて新しい” 腫瘍マーカー-Tissue Polypeptide Antigen (TPA) の婦人科良性、悪性疾患における血中値並びに摘出標本での組織内局在を検索し両者の相関より CA 125, TPA の“腫瘍特異性”を検討した。

方法: 婦人科良性疾患51例, 悪性腫瘍65例, 計116症例にて血中 CA 125, TPA は市販 RIA Kit にて、組織内局在は Bast (CA125), Wiklund (TPA) より提供された Monoclonal 抗体を使用した Aridin-Biotin Immunoperoxidase 法により検索した。血中値/組織内局在は、(A)血中高値/局在陽性、(B)正常値/陰性、(C)正常値/陽性、(D)高値/陰性の4群に分類した。

成績: 卵巣良性疾患, 子宮筋腫で TPA は全例(B)群に属したが CA 125 では各々19% (卵巣良性疾患),